



「全ての偶然は必然の集合体である」

14才、消極的な性格で一日に言いたい事の20%も言えなかった僕にはギターが拡声器に思えた。

ひとりギターを弾いているとベースの友達が出来、

ドラムを持っている友人宅で隣の高校のボーカリストを紹介された。

そしてその場でパンクバンドを結成した。

ギターとの出会い、それはモノクロの世界が256色に塗られた瞬間でもある。

街のざわめきが音符に変わり工事現場の騒音はビートに変化した。

そして初めてのステージ。広大な音楽の世界へ、航海はここから始まった。

人は嫌われる事を避け、闇を黒く塗り体裁を取り繕う。

「JUSTICE」という相棒は影の役割を担う「GUILTY」を連れてやってきた。

光が生む闇にはギルティという正義がある。

触れただけで感電しそうなヘッドによく斬れそうなボディ、

持つ者の本音だけが発信させられるピックアップ。

ジャスティスには相当厄介なギルティが纏わりつくクロスボーンという名の十字を背負った陰と陽。

影の奏でるダークトーン、音楽の虜になるがいい。